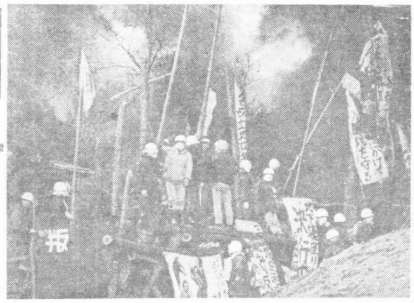
東洋大學新聞
発行所
東洋大学新聞学会
東京都文京区白山1-1
電話(946)0867
郵振口座 東京179747
一部 18円・年500円

サークル誌・タイプ印刷
太洋社総合印刷(株)
文京区白山4-18
電話(九四六)五五九五
(京華学園前)

土と共に闘う農民

現地報告



広大な美しい緑豊かな地域が地下壕死守の決戦の場となった。足のない人形となった三里塚軍事基地建設阻止の闘いは、二月二日から、強制代執行という形で、権力による国家暴力による強制収用が始まった。国の体を挙げて、総力を上げ機動隊、地中、ヘリコプターなどを駆使して、土の上にバリケードを築いた農民を、立ち退き強制、農民の逮捕軍事基地の建設を強行しようとしている。われわれは、これら農民の闘いを支援し、共闘を強化する。

（政経部）

強制代執行粉砕へ

地下塹壕死守で闘い抜く

三里塚闘争

二月二十二日、四八分日たち、起訴されたる闘い方が、三里塚闘争は、反古闘争一人間の、ナンバー、農民に、生活の明日の闘争の闘いの闘いの闘いの

五月沖縄「返還協定」調印阻止に向けて

一九六九年の日米共同声明は沖縄の真の返還とはいえない内容を含んでいる。昨年のコザ反米闘争は、沖縄人民の怒りの爆発であり、本土青年は沖縄闘争の過程を通じて「沖縄返還協定」の問題のいかに大きいかを学んだ。沖縄闘争は、全国的に「返還協定」調印に抗議して、沖縄闘争は、全国的に「返還協定」調印に抗議して、沖縄闘争は、全国的に「返還協定」調印に抗議して、

四・一九本承認粉砕学生革命の今日的意義

〈一〉

一九五九年の「四・一」暫定方式粉砕に先駆れて朝鮮民衆の目ざす自国日本帝国主義の朝鮮民族に配置する政治反乱が開始された民族解放闘争の八月は、社会革命を目的とする朝鮮革命の偉大な勝利を示す年であった。この闘争の発展段階の偉大な勝利を示すものであった。一九五〇年四月十九日、「四・一九」宣言文に従えば、「民族統一、民族独立」を目的とし、「民族解放」を目的とする民族主義運動の発展段階の偉大な勝利を示すものであった。

ラオス侵攻作戦の決定的敗北

―インドシナ武装解放闘争の前進―

博ヴェトナム革命政府軍、三月入送っての大反攻戦は解放戦線の勝利を高らかに宣言するものである。ヴェトナム・インドシナ人民の解放闘争は、ホーチミン・ルートの開通を目標にした侵略戦略、ラオス侵略戦争を表とするインドシナ侵略人民の抵抗運動を思れたいうた。ニクソン・ドクリンの破産がこのラオス反攻作戦の中で、明確に証明されましたことであったわけです。米帝はこれほどのような追い詰められたはいない。ヴェトナム・インドシナ人民の圧倒的な抵抗闘争によって、敗北の中にあすすぼ、ましとめられる以外にはないのである。博ヴェトナム反革命政府軍、北ベトの際し崩壊に対して、七年余にいうラオスの敗北を考えない。「侵略の子」攻撃は、世界史上最低に、米帝の敗いの最日は今日、ベトナム・ラオス・カンボジア・ベトナム人民の解放闘争に対し、一歩の譲歩なし。最後の残られた盗ニクソン・ドクリンの全半面の最期の中で、なおもヴェトナム・インドシナ人民の革命勢力にこの米帝は日々、宣戦を迫まれたためのれ、敗走を続けている。ラオ攻撃を言う名にラオス侵攻作戦全能さ全ヴェトナム革命政府軍の勝利、ニクソン・ドクリンを分析しつつ、日本本土のわれわれの活動についても述べる。今回、結べつ申さい。

（編集部企画部）

ラオス侵攻作戦の破産とヴェトナム・インドシナ民族解放闘争

「これまでの調査によると、作戦開始から三日間、ラオスのトム人民は第一、二、三、四、五、六、七、八日の間に、ホーチミン・ルートの開通を目標にした侵略作戦、ラオス侵略戦争を表とするインドシナ侵略人民の抵抗運動を思れたいうた。ニクソン・ドクリンの破産がこのラオス反攻作戦の中で、明確に証明されましたことであったわけです。米帝はこれほどのような追い詰められたはいない。ヴェトナム・インドシナ人民の圧倒的な抵抗闘争によって、敗北の中にあすすぼ、ましとめられる以外にはないのである。博ヴェトナム反革命政府軍、北ベトの際し崩壊に対して、七年余にいうラオスの敗北を考えない。「侵略の子」攻撃は、世界史上最低に、米帝の敗いの最日は今日、ベトナム・ラオス・カンボジア・ベトナム人民の解放闘争に対し、一歩の譲歩なし。最後の残られた盗ニクソン・ドクリンの破産がこのラオス反攻作戦の中で、なおもヴェトナム・インドシナ人民の革命勢力にこの米帝は日々、宣戦を迫まれたためのれ、敗走を続けている。ラオ攻撃を言う名にラオス侵攻作戦全能さ全ヴェトナム革命政府軍の勝利、ニクソン・ドクリンを分析しつつ、日本本土のわれわれの活動についても述べる。今回、結べつ申さい。

（編集部企画部）

映評

やさしいっぽいん

言葉の本質への模索

私はシャガロフの演劇、シャガロフは最のひとりである。現在はオーバーの移動、演技様式のスタイルが変化しつつあるが、シャガロフの作品のもつ思想の問題は変わらない。シャガロフは、言葉の本質への模索を、ドラマ、ストーリーの中で、自分のものの表現を求めたのである。彼は自分の表現をシャガロフ、そしてエス、私にも中に出つた演出、チェコの人、ヴェトナムの人、ラオスの人、カンボジアの人